

宮本賞受賞者『宮本賞受賞と私』 2019.7

受賞当時	現在の職場・大学	本賞を知ったきっかけ	応募の動機	テーマの決め方	所用時間	受賞した感想	就職・進学などに役立ったか	日本に招待されて	
江暉さん (院生の部・第2回 最優秀賞)	東京大学学際情報学府III博士課程	中山大学外国語学院副教授	学会のホームページ	自分が日頃研究し、執筆した論文を世間に発信しなかった。特に日中関係学会では中国と深くかかわっている方が多くいらっしゃるの、アドバイスをいただきたいかった。	普段の研究テーマの中から、日中関係とかかわっている内容にしぼった。	大体一か月	世間からの注目と自信(笑)。	受賞をきっかけに、本を出版することが出来た。ありがとうございました。	
間瀬有麻奈さん (学部生の部・第3回 最優秀賞)	愛知県立大学	NHK記者(長野放送局)	ゼミの先生	中国・南京に留学時に自分が独自に行ったアンケート調査から知り得た中国人の「日本観」を分析し、かつ、その結果を多くの人に知ってもらいたかった。	南京留学時から中国人の日本観について、当時の日本の認識と異なる部分があると感じていた。それを分析し、しっかりと理解することが日中関係の相互理解につながると考えたので、多方面から中国人の日本観を調べ、それを論文にまとめることにした。	留学中の調査時間がおおよそ1ヶ月、帰国後のまとめや分析、それに論文作成で1ヶ月ほど。あわせて2ヶ月ほど	受賞には驚きを感じたが、日中間の相互の認識のずれや、日中関係改善のために必要となる多面的な相互理解のあり方など、自分が中国留学で経験して抱いた考え方について、日中関係に携わる専門の方々からの評価を得ることができ、大きな自信となった。	報道機関への就職面接の際、「自分はこう考えている」という具体的かつオリジナリティのある考えを自信をもって話すことができた。受賞し書籍化していただいたことも含めたアピールもできた。また、現在、長野県内でも中国に関わる取材をすることもあつた。そういつたときに自分を知ってもらうという意味で自分の論文を読んでもらうこともある。そうすると、取材相手からの信頼を得ることもできるので、宮本賞での論文作成や受賞などの経験が大いに役立っている。	
韓静さん(学部生の部・第3回優秀賞)	日本大学商学部	日立物流会社	大学の指導教授からご紹介	アドバイスを頂ける一方、社会に出る前にたくさんの方と出会いたいと思った。	自分が将来日本で就職したかったため、留学生の就職問題を巡るテーマに絞った。	4ヶ月ぐらい	自分の研究内容が良く評価できて本当に嬉しかった。また、たくさんのご意見とアドバイスもいただいた。	本当に自分の就職にも役に立ったと思う。	
龍蕾さん(学部生の部・第4回優秀賞)	広東外語外貿大学	湖南衛視	学校から宮本賞の応募要項のメールを受け、宮本賞を初めて知った	それまでの自分の研究成果を発表し、専門家の方々からアドバイスをいただきたかった。	普段から日中両国の文化・思想交流に特に関心を持っていた。中国清朝末期という時期は日中両国の文化・思想交流が最も活発だった時期で、その時期に中国の思想家たちがどれほど福沢諭吉の思想を受け入れたのかという問題に絞り、テーマを決めた。	執筆から完成まで凡そ5ヶ月		非常に役立った。さらに研究しようと思ひ、日本の大学の博士課程で日中両国の文化・思想交流を研究しようとした。	貴重なアドバイスをいただき、憧れていた慶應大学を見学することができ、そして浅草寺や日光など様々な名勝にも観光して、かけがいのない思い出に。
倪木強さん (学部生の部・第4回 優秀賞)	日本大学商学部	日本IBM	ゼミの教授	日本人学生と中国本土学生、そして在日留学生のそれぞれの見方がどう違うのか、なぜ違うのかを知りたかった。	中国人消費者の購買意欲について。	5か月	私のような者にもたくさんチャンスがある、という言葉。この受賞経験から勇気と自信を持つことができた。そして最後まで頑張り切ることの大切さを学んだ。	論文執筆と受賞は、進路を決めるうえでの動機、軸になる。この賞で受賞したことはどの企業においても非常に評価されている。日中の関係改善につれてもっと知名度が上がれば、社会貢献になっていくのではないかなと思う。	
高橋豪さん(学部生の部・第5回優秀賞)	早稲田大学法学部	朝日新聞(京都支局)	大学でお世話になった砂岡和子先生からの紹介	中国留学中のインターンシップの経験をアウトプットする良い機会だと思ったため	当時興味があったメテアと日中関係、そしてインターンシップ先の経験を上手にリンクさせた。	1か月弱	お世話になったインターン先の各位に良い報告ができると嬉しく思った。	メテアのESや面接では、欠かさずアピールさせて頂き、反応も良かった。	

宮崎健太さん(学部生の部・第5回優秀賞)	早稲田大学商学部	早稲田大学商学部	指導教員の薦め	授業で学んだ中国に関するトピックについてより深く掘り下げることができるとともに、論文を書くという体験は大きな財産になると思ったから。	授業で学んだトピックの中から自分の興味関心のあったものを選んだ。	準備を含めて3ヶ月程度	初めて書いた論文であり、自分の書いたものが何らかの評価をいただけたという点で非常に嬉しかった。	論文を書くという経験をしたことで、その後の大学でのレポート等の作成をする際に役に立っていると感じている。また、中国という身近な外国について知識を深められ、自分の進路を考える上で海外という可能性も検討するようになった。	
王嘉龍さん(学部生の部・第5回優秀賞)	北京第二外国語学院	中国銀行	大学の先生	皆さんと一緒に交流したかった。	グローバル化が進んでいく中で、日系進出企業の中国本土化が目立ったため。	資料集めから約2カ月	受賞とは全然思いもよらなかった、嬉しくてたまらなかった。認められた、やりがいがあると思った。	めっちゃ役に立つと思う。視野が広がっていき、交流もできて、たくさん意見やアドバイスをもらった。	よかった。日本の受賞者の皆さんともコミュニケーションができた。滅多にない機会だ。
小泉裕梨絵さん(学部生の部・第5回特別賞)	日本大学商学部	大洋エーアンドエフ	ゼミの担当教諭からのご紹介	中国の経済や文化に精通した人達が審査員だから。ほかの参加者と交流できると思ったから。	中国の経済や経営を研究するゼミに所属していたので、ゼミや授業で勉強した内容を元にテーマを決めた。	テーマは4~5月に決定。執筆に1~2カ月	様々な分野で活躍する日中の人達との関わり。(受賞式パーティーなど)	就職活動に役立った。面接担当の方へのどのような事を勉強したのか、興味を持ってもらうきっかけになった。	
浦道雄太さん(学部生の部・第6回最優秀賞)	横浜国立大学経済学部	横浜国立大学経済学部	教授の紹介	考えを論文にまとめて発表したかったから。	日経新聞でシェアリングエコノミを読み、新しい分野で、学生にはびつたりのテーマだと思った。	2週間	大学時代で一番の達成感が得られた！！	就職活動の面接で、シンクタンクの研究員やメディア関連から宮本賞受賞の実績を評価された。	
白宇さん(院生の部・第6回優秀賞)	南京大学博士課程前期	関西学院大学	指導教師からの紹介	大学院で学んだこと(研究方法など)を生かして、自分の気づいたこと、疑問に思ったことを検証して、人の役に立つ提案をしたいと思った。	興味を思ったことについて指導教師と相談しながら、色々アドバイスを受けて、これが面白い！と思ったことでテーマにした。	3カ月半ぐらい	なんでもやってみることで、チャレンジすることが大事だということ。		良い出会いが多くあって楽しい時間を過ごすことができた。と同時に、同世代の日本の若者と色々交流できて、大変刺激を受けた。これからもっと頑張ろうと思った。
朱杭珈さん(学部生の部・第6回特別賞)	中国嘉興学院外国語学部	横浜デザイン学院	留学生支援NGOの立志会メンバー(日中関係学会の会員)からの紹介	2016年3月に日中友好花見大会(立志会と浙江大学主催)で立志会と出会った。そこで国籍や言葉を問わず交流している姿に感動。このような日中民間交流活動が私に与えてくれた感動を他の人にも知ってほしいと思って応募。	理想的な日中民間交流活動を模索しようと思った。	調査など含め、大体3カ月くらい	いろいろつながりができた。将来はこれらのつながりを活かし、日中企業共創発展プラットフォームを作りたいと考えている。	論文テーマをさらに大学院で研究したいと思って、今は進学準備をしている。	日本に招待されて、同じ志を持った多くの方と出会って良かった。
王羽晴さん(学部生の部・第7回最優秀賞)	中山大学外国語学院	中国(広州)国際ドキュメンタリー映画祭	指導教師からの紹介	宮本賞の機会を借りて、自分が日頃日中両国についての考えを文章にまとめたかった。	中国での日本ブームについて、自分が日頃強く感じたことから論文の角度を決めた	1ヶ月程度	自分の論文が評価され、また、初めての本も出版されたことは、とても嬉しかった。	これから就職する際に、自己PRの例として活用したい。	中国に興味・好意をもつ、こんなに沢山の方と出会い、お互いの考えを分かち合い、とても感動し、貴重な経験となった。

劉崢さん(学部生の部・第7回優秀賞)	南開大学外国語学院日本語文学科学部	南開大学外国語学院日本語文学科学部	大学の先生	大学で学んだ時、中日両国で様々な分野の違いを深く考えて、論文を書いてみると思ったから。	「中国のモバイル決済は日本のネットユーザーを驚かせている。」等のニュースが私の関心を引き起こしました。そこで、私は一連の疑問を抱きました。これらの現象の背後にある問題について解明していきたいと思い、この論文を書きました。	大体3カ月くらい	初めて書いた論文であり、受賞とは全然思いもよらなかった、本当に嬉しかった。	大学院で日本について研究したいと思って、未来の発展の方向に役立った。	今回の5日間で、いろいろと勉強になった、この楽しい思い出は自分にとって一生の宝物だと思う
--------------------	-------------------	-------------------	-------	---	--	----------	---------------------------------------	------------------------------------	--